



だより

— つながれ ひろがれ —

Vol.29

編集 環境パートナーシップちば
 代表 横山 清美
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
 (財)千葉県環境財団 環境学習推進室内
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969



パートナーシップの推進に向けて

千葉県環境生活部環境政策課長 中山 充史

今年も早や一か月がたちましたが、皆様方には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃から、環境パートナーシップちばの会員の皆様や、この「だより」の読者の皆様には、地域からの環境保全活動の推進に大変なご努力を頂いていることに、心から感謝申し上げます。

言うまでもなく、今日の環境問題は、私たちの日常生活や事業活動に起因しているものであり、不特定多数が原因者であり、被害者でもあります。特に地球環境問題は、多くの人に現状が見えにくいだけに、やっかいな問題であると言えます。

環境問題の解決には、とにかく一人でも多くの人が自らの問題として捉え、自らのライフスタイルを変えていくこと、周りの人にその輪を広げていくことの積み重ねが重要です。それには、皆様方のような意識ある人たちの積極的な活動、そして、行政や企業などの多くの主体とのパートナーシップが不可欠であります。

昨年、千葉県では、環境再生計画をスタートさせました。傷つけられたふるさとの貴重な自然を再生し、豊かな自然を将来の世代に引き継いでいく、そのためには、県民総ぐるみの運動が必要と考えたわけです。また、10月には、「千葉県資源循環型社会づくり計画」を策定しました。大量生産・大量消費・大量廃棄の生活スタイルから脱却し、環境への負荷

が少ない持続可能な社会の実現に向け、県民、NPO、事業者、行政などあらゆる主体が連携・協働して取り組んでいきたいと思っております。

今、環境学習や環境保全活動の分野では、環境問題に意識ある市民、NPOの役割がますます重要になってきています。県で委嘱している環境学習アドバイザーにも、NPOの方にご協力いただいていますし、環境学習指導者を養成するエコマインド養成講座でも、講師として活躍してもらっています。また、14年度は一宮町の小中学校をモデル校にして、NPOの支援を受け、行政、学校と連携を図りながら、総合的学習の時間を使って環境学習と環境保全活動のモデル事業を進めてきました。さらに、昨年12月には、浦安市で県民環境講座(環境と科学の講演会)を、初めてNPOとのパートナーシップで実施し、盛会に開催することができました。

このように県の事業でも大きな役割を果たしているばかりでなく、毎年開催される環境シンポジウムやエコメッセちばも、NPO、行政、企業のパートナーシップで実行し、環境シンポジウムからは、新たなNPOが生まれ、環境保全活動が広がりを見せています。

個々のNPOでは活動の場や力は限られていても、皆で知恵と力を合わせ、情報を交換し、さらに活動を広げていくことにより、足もとの環境から地球環境へと環境保全活動の輪が広がっていくことを願っております。今後とも、皆様方のご協力をお願いいたします。

委員会に参加して

(NPO活動推進指針のことなど) 代表・横山 清美

初春のご挨拶には少し遅いように思いますが、皆様にはさわやかな新年をお迎えのことと存じます。

今年は、市民活動にとって躍進的に行政との協働が進む年となります。そこで、策定過程で多くの市民の方々に骨子案から説明・意見を求め、みなさまと作り上げて来ました千葉県NPO活動推進指針が昨年 11

月 25 日に知事より発表されましたので、このNPO活動推進指針についてお話ししたいと思います。

この指針は、千葉県において、NPO活動を推進していこうとするさまざま



な団体・市民に対して、協働の取り組み方を提案するものでもあり、私も委員として参加させていただき、私たちNPOが最も活動しやすくするため、市民と行政が協働して指針を作るという初めての貴重な経験をさせていただきました。

まだお手元に指針がない方は、千葉県NPOパートナーシップオフィス(TEL 043-223-4145)に直接お問い合わせいただくか、千葉県ホームページから取り出すことも可能ですので、市民活動に携わっている方や興味のある方は、是非目を通していただき、活用していただけることをお願いいたします。

昨年は、公募のNPO活動支援事業なども始まり、初めての経験をされた方も多かったでしょうが、今年は更に具体的な行動計画によって身近な活動に結びついてきます。この行動計画が動き出す15年度を後で振り返りかえるといういろいろな意味で節目になっていることが期待されます。

これからが実際に、活動をしていった時のさまざまな障害を乗り越えて、協働のモデルになったりならなかったりもして、協働の領域やルールも見えてくるのだと思いますが、策定後も社会環境の変化や県内のNPO活動の状況のみで、柔軟に見直しを行います。これからも何度かこのだよりも登場することになると思いますので、更に皆様のご意見をお願いいたします。今号では、行動計画の中でも目玉となり、是非進めてほしいという意見の多かったワンストップサービスの

実現について、みなさまと考えてみたいと思います。

ワンストップサービスの具体的な行動計画は、NPO担当部署への情報の一元化、出前説明会の開催、ワンストップサービスの窓口の充実、参加のプロセスの明確化、NPOと協働した事業の組み立て、パートナーシップマニュアルの作成、NPO支援センターの検討、市町村行政の支援センターとの関係構築の検討等があります。どれ一つ取っても重要ですが、容易なことではありません。例えば、県職員のNPOに関する理解が得られた上でなければ、県行政のNPOにかかる事業の情報は、NPO担当部署が一元化できることにならないでしょう。また、県庁舎の案内は総合受付に行けばわかるように、NPOパートナーシップオフィスに行けばさまざまなサポートサービスが受けられるようになる。そのためには、時間はかかりますがサービスの担い手は誰なのかも含めて、NPO担当部署と一緒にNPOが情報や意見を交換しながら一緒に作り上げて行くことが重要だろうと考えます。

これから現実的にこれらのシステムを構築して行く上では、現在のNPO推進懇談会の委員だけではなく、多くの市民の手が必要となります。そのような公募があった時には、ひとりでも多くの市民が手を挙げてくださることによって、この指針は活かされていきます。一緒に作り上げていきましょう「市民の視点に立ったより良い地域づくり」のために。

松戸市政施行60周年記念

『まつど市民活動サポートセンター』オープン

～各地で市民サポートセンターオープン～

縣 和子

市民と行政のパートナーシップによる活動の拠点として、松戸市にも、昨年11月「松戸市パートナーシップ検討委員会」から提出された中間提言に基づいて「松戸市市民活動サポートセンター」が1月20日に開設されました。これで県内の市民サポートセンターは8か所になります。18日の開所式には、市長川井敏久氏はじめ市会議員・ボランティア団体代表・松戸市パートナーシップ検討委員等の列席のもと、「鼓流松戸つづみ連」や筆曲が賑やかに門出を祝いました。21団体の「ボランティア・NPO」等の紹介コーナーもしばらくの間特設されています。

このセンターは、市民活動推進機関で、活動に必要な場所と事務機器を提供するだけではなく、情報の収集と提供、研修や講座等も開催します。施設内容は、180人から18人が使える大、中、小の会議室、約500㎡の多目的ホール、調理室、作業室、交流サロン。パソコン、印刷機器、関係図書と資料、ビデオ等も設けています。設立経緯、特徴について以下に列挙します。

* リサイクルしています

建物自体が「健康増進センター」の転用で、内部施

設もほとんど既存のまま再利用し、新たに必要になった机やイス等の備品は市のリサイクルセンターから譲り受けました。また、長い間使われていなかった館内の汚れは、ボランティアが何日もかけて十分とは言えないまでも磨き立てました。まさに、合言葉は「お金を使わずに頭を使う」です。

* 公募による59人の委員

新しい時代のパートナーシップのあり方を考えるために、公募市民による「松戸市パートナーシップ検討委員会」を昨年6月発足させたところ、応募者は60人(現在59名)にのぼりました。松戸市で初めて市民主体の政策の取り組みへの期待もあり、全員が委員となり、千葉大学園芸学部助教授・木下勇氏を委員長と



し、昼と夜の二つの部会に分かれワークショップ方式で検討を重ねていきました。

定例会以外のワーキンググループが、時には深夜まで激論を戦わし、なんとか中間提言書をまとめあげました。市民主体のパートナーシップとは、市民と行政間だけでは無く、市民間のパートナーシップが重要な課題だということを実感しました。

*** 使用料金は、な、なんと無料！**

当初は条例の制定が必要な範囲での実費（コピー・印刷機等）を徴収し、室料の使用料については無料とし、より多く利用してもらうことでセンターの存在と役割を広く市民に理解していただきます。ただし、遅くとも16年4月からは自立した市民活動を目指し、受益者負担として室料を有料とします。

*** 走りながら考える運営**

当初は公設公営とし、検討委員会の希望者がスタッフとして実際の運営にたずさわりながら、利用者の生の声を委員会に持ち帰り、センターの在り方に反映させ課題を検討していきます。16年4月からは公設民営とすることを目標とし、運営委員会を設置し意思決定に当たります。

県内サポートセンター連絡先	TEL :	FAX :
市川市ボランティア市民活動センター	047-326-1284	047-326-1278
我孫子市ボランティア市民活動サポートセンター	04-7165-4370	04-7165-4371
栄町住民活動支援センター	0476-80-1733	0476-80-1735
浦安市市民活動センター	047-305-1721	047-305-1722
印西市市民活動支援センター	0476-49-4500	0476-49-4511
千葉市民活動センター	043-245-5687	043-245-5688
やちよ市民活動サポートセンター	047-481-3222	047-481-3221
まつど市民活動センター	047-365-5588	047-365-5636

県民環境講座・環境と科学の講演会を開催して

千葉県環境生活部環境政策課

暮れも押し詰まった昨年12月23日、浦安市文化会館大ホールにおいて、上遠恵子さん、毛利衛さんを迎え、県民環境講座・環境と科学の講演会を開催しました。当日は、地元浦安市をはじめ県内各地から大勢の皆様が訪れ、定員1,300人の席、全てを埋め尽くすほどの大盛況ぶりでした。

県民環境講座は、県民の一人ひとりが環境問題について理解を深め、環境にやさしいライフスタイルの実践や自主的な環境保全活動を展開していただくことを目的に、千葉県が（財）千葉県環境財団に業務を委託し、平成8年度から実施しております。

特に今回の講演会は、初めての試みとして 地元市・NPOとのパートナーシップで行うこととしました。

地元浦安市においては、共催者として 会場の提供をはじめ運営上必要な各種機材等の協力を得るとともに、レイチェル・カーソン日本協会浦安においては、講師両名との折衝にほぼ1年前からあたるなど企画面で多大なるご尽力をいただきました。また、申込受付や全体進行等実務面での主体となった千葉県環境財団を含めた4者で運営にあたりました。

応募開始から11月末までの申込者は、400人程度で大きな会場を埋め尽くすには程遠いものでしたが、4者が一体となって、学校等の公共機関や報道機関等に働きかけPR活動を展開したところ、日を追うごとにPRの輪が広がり、当日の一週間前には、不安を払拭するかのよう申込者が定員近くに達し、当日入りきれないのではないかと心配するほどになりました。

これも4者のパートナーシップにより、各々が責任ある役割分担のもと成し得た結果であり、協働パワーの成果を実感しました。

なお、当日の主な講演内容は次のとおりです。

1. 『自然からの贈りもの』

レイチェル・カーソン日本協会理事長 上遠恵子氏



「センス・オブ・ワインダー」の上映をはさみながら、地球上のかけがえのない自然を大切にし、自然の美しさを伝えていただいた。また、自然を知ることによりも感じるものが大切であることをレイチェル・カーソンの研究や自身の自然体験をもとに語っていただいた。

2. 『宇宙からの贈りもの』

日本科学未来館館長・宇宙飛行士 毛利衛氏



宇宙飛行体験は、新しい視点から地球を見る「地球体験」でもあり、宇宙から見た地球環境は、緑や水をたたえた美しく素晴らしいものであり、この環境を守ることが大切であると実感した。そのためには、科学技術の進歩も必要であることなどを自身の宇宙飛行体験をもとに語っていただいた。

第9回 エコサロン

中国訪問印象紀

小関 光二



私は、昨年 10 月 8 日から 16 日までの 9 日間、日中科学技術交流協会の中国環境調査をお手伝いするかたちで、北京市と山東省の青島市を訪れました。北京市では、日中国交正常化 30 周年記念事業の一つである科学交流事業記念環境シンポジウム「循環型社会の創造をめざして」に参加すること、青島市では、工場や都市環境を視察し、排水や廃棄物の実情を調査するとともに今後の交流を深めていくことが目的でした。

調査団員は、日中科学技術交流協会の副会長・鈴木伸千葉大名誉教授を団長に、早野東大名誉教授（北京）、立本千葉大教授、袖澤助教授、横山寛日中科学技術文化センター参与と私でした。北京でのシンポジウム参加者は、日本からの学者、民間会社の環境研究者約 60 名と中国側参加者を含め約 150 名でした。

シンポジウムは 2 日間で、会場は日本の援助により建設された「日中友好環境保護中心」でした。1 日目が全体会議、2 日目が大気、水質、廃棄物に分かれての分科会で、私は北京空港に降り立った際に、スモッグによる大気汚染ではないかと感じ取り、「循環型社会と大気汚染」に出席しました。各研究者の発表は、中国側は総論や考え方が中心で、日本側は具体的な発表が主でした。中国では今後の社会の発展には循環型経済社会が必要不可欠との認識であり、この実現には、雇用を守りながら進めるという考え方でした。特に、資源エネルギーの使用効率の向上が焦眉の課題と受け止めました。大気環境分科会では、11 名中、日本側発表者が 9 名で、この分野の日本の技術の進歩を強く感じさせられました。特に、中国の問題点である石炭燃焼に伴う SOx による農地等の土壌劣化や、複合原因とされる砂漠化の進行防止のため、日本の多くの学者、研究者が、より安く、より効率のよい石炭燃焼に伴う SOx を除去する循環型の技術を中国と協力して開発、実証実験を行っていることを知り、私は、日本で忘れてきている SOx 問題の大切さを痛感し、将来のエネルギー問題を考えると、日本でも、これらの技術を中国から逆導入しなければならない時代が来るのではと、多に感銘を覚えました。石炭からの直接脱硫する技術、石炭燃焼時に脱硫する技術、排煙脱硫とその後に排出される石膏を劣化農地の改良剤として使用する実験など、です。これらの技術が全て、家庭から工場までを対象とし、しかも、焼却灰や副産物を中国での大きな環境問題であります土壌のアルカリ化、酸性化、砂漠化防止に循環使用することを含めて技術開発していることが特長です。

その他、北京市内を散策した印象を列記いたしますと、オリンピックの準備とみられますが市内各所で、古い建物を壊し、新しい高層ビルを建設している職を求めていると思われる人々が、夜も建設現場前に集っている 貧困者の姿などです。でも、生きる力

強さは大いに見習うべきことと思います。

翌日（土）は、中国の名門清華大学を訪れました。この大学は、

清の時代の皇帝の「清華園」という広大な庭園に、昔の建物を残して建てられ、当時はアメリカ留学の予備校であったという歴史の長い伝統校とのことです。緑が多く、故宮の門を小さくしたような“長屋門”が連なり、すばらしい学園環境です。3E 学院（エネルギー、環境、経済学部）の先生方と大学教育の方針、産学官の協力のあり方、廃棄物の問題等について懇談し、交流を深めました。日本の家電リサイクルについて、今年初旬に訪日視察団を計画しているそうです。最後に東京大学と共同開発中の脱硫プラントを見学しました。

日曜日は、国内航空で北京から青島市へ移動。窓からみた北京はやはりスモッグでした。青島では、市環境保護局の職員の案内で、2 日間にかけて、最新の石炭火力発電所、焼却灰を利用するレンガ工場、松下電子部品工場、青島ビール工場、ハイア一家電会社などの工場と、青島高級専門家協会、浄化槽処理水を構内緑地に散水利用している住宅団地、老子を教祖とする寺院がある海岸景勝地、海水浴場などの都市環境を視察しました。新しい開放区にあるこれらの工場は問題はありませんが、移動中に旧臨海工業地帯の周辺に産業廃棄物の大量な堆積場を散見し、風光明媚な青島市にも負の遺産をかかえ大変だなどの印象を持ちました。

中国は、ここ数年、改革開放のもと、市場経済導入と 2008 年北京オリンピックに向けて、年率約 7% というすざまじい経済成長を続けております。その一方で、日本が今までに経験してきた多くの環境問題（大気、水質、廃棄物など）や社会問題（貧富の格差、都市と農村の地域格差など）に加えて、日本は経験したことのない砂漠化、水不足（黄河断流といって海まで水が流れない日が多くある）農地土壌の劣化（アルカリ化など）の大きな課題を同時にかかえています。

中国は、これらの問題に対し、社会の安定と経済発展を基礎に対応しようと努力していると私は感じとりました。これらの問題は、隣国日本とも密接に関係しており、環境面から出来る範囲で、ボランティア精神で協力したいと思っております。帰路の機中から、去る大陸を眺めながら、広大な日本海の海原のかなたに、日本という文明の発達した島国、ひきこもりなど生きる力の弱い若者世代を多くかかえる島国があるうとは、一瞬不思議な感をいただきます。大陸からみている方々の気持ちができるような気がします。

会員から
の報告 1

環境教育・環境学習指導者養成セミナーの開催

土田 茂通 (環境カウンセラー)



平成 14 年 12 月 23 日千葉市生涯学習センターの大研修室において、環境教育・環境学習指導者養成セミナーが開催された。本セミナーは環境カウンセラー全国連合会(以後 ECU と云う)が環境事業団地球環境基金の助成金を受けての事業で、3 年計画の初年度に当たり、平成 14 年度は 5 箇所(埼玉、千葉、福島、岡山、東京)で各県の環境カウンセラー(以後 EC と云う)協議会と共催で開催される。千葉県は EC 千葉県協議会が共催、参加者は男性 44 人、女性 36 人で満席大盛況であった。

最初に、ECU の先崎理事長より講演があり、平成 15 年 1 月の国会に上程される「環境保全活動法」にふれ、その中で特に「地域環境力創造戦略」を説明された。先崎理事長は環境省を退官後の市民活動の経験を詳しく述べて、次の締めくくりを行った。

- ◇ 指導者は、問題を蓄え、潮流を見て先を読み
- ◇ 指導者は、常に視野を広くアンテナを高くし、「ひらめき」を活性化せよ。

次に、ECU 富川常務理事より養成セミナーの主旨とその狙い目について講演された。テキストは総論、各論、結語よりなり、執筆者が知名度の高さでなく、実地経験に基づいて必要と思われる知識と体験を記述しているところに特徴があることを強調された。

第 1 部の講義 1 「環境教育の進め方」の演題で倉田智子氏が講演され、「長年月で経験してきた環境保全活動において、特に箱根地区のサブレンジャーの体験を中心に多くの事例を引用しながら、指導者ならび指導者を目指す人々に、体験からの気づきが大切であること、捉え方は種々の切り口があること、単なるハウツウの進め方より、環境保全活動に身をおいてその入り口、切り口、ボーリングを自らおこない感性を磨いてゆくことが最も大事なこと、加えて感性に知識の裏打ち即ち自己研修の必要性を言い、その上で体得したものが環境教育を進め方の基本になる」と指摘された。

第 1 部の講義 2 「大気汚染源の把握」の演題で県環境研究所の横山研究員が講演され「大気汚染の分類には種々な方法があることを事例で説明し、特に都市構造と大気汚染という新しい視点から独自の解説を試みられた。地球温暖化問題は本当に何が問題なのか、地球科学の論点から解析されて、過去に百万年かけて起きた温度上昇の変化が、今後 100 年間で人的行為により起きようしていること、それに伴い大規模な気候変動が生じることを指摘」そして「指導者はまずは問題を正しく認識すること」と強く主張した。

第 2 部は「暮らしと学習」問題提起とワークショップが企画され、4 テーマを取り上げた。「地球温暖化と

ライフスタイルを考える」を秋元智子氏、「ごみとリサイクルを考える」を千葉市役所の渋谷哲央氏、「おいしい水を考える」を河井恵子氏、「自然とのつながりを考える」を松山みよ子氏らが各 20 分間で講演と問題提起を行った。その後、参加者は 4 班に分かれてワークショップを行った。

第 1 部会では、地球温暖化防止活動では行政とのタイアップがうまくいっていない事例が報告されたり、うまくタイアップが出来たが市民は総論賛成、各論反対の姿が顕在化したり、話題が多く出された。市民の無関心やネットワークの構築は大きな課題と認識された。

第 2 部会では、市民のごみ減量の行動がテーマで千葉市の事例で討議された。指導者の立場になって全員が発表して 6 つのキーワードに集約した。ここでも市民・行政・事業者の協業(ネットワークの構築)に課題があることが認識された。

第 3 部会では、家庭排水、家庭で使われる化学物質、浄水場の薬品、農畜産排水などがめぐりまわって、テーマの家庭飲料水を美味しくなくしている実態に言及、要因や対策を検討した。化学物質など環境への警鐘が上滑りで、市民の意識の遅れが浮かび上がり、環境教育・環境学習の重要さが再認識された。

第 4 部会では、テーマを「未来を担う子供たちへ」「今を生きる大人たち」に二つに分かれて、ワークショップを進めた。大人の世界では現実を直視し、議論を展開したが、キーワードに至らず、振り出しに戻りつつも、パートナーシップ構築に向けての姿勢の再確認となった。子供たちへのメッセージとして「やってみよう。やってみないとわからない」と括った。

各部会の発表を聞きながら、全体を通してパートナーシップ構築が共通した課題として浮かび上がってきた。指導者や指導者を目指すものにとって環境教育・環境学習の重要性とともに、大きな障壁に立ち向かう熱意と情熱が要求されていることを認識したのではなかろうか。

会員から の報告 2

かずさ緑の会の活動

朝比奈 隆（かずさ緑の会）

活動の始まり

私たちの団体活動は 1996 年に農水省の農村環境整備事業モデル地区となった睦沢町で始まり、今もここが主な活動基点である。睦沢町は、房総半島の中央部よりわずかに東南に位置し、四方陸続きの人口約 8000 人の小さな町だが、公社開発の 100 件以上の住宅団地が四つあり、都市からの移住者が多い。整備の対象となった元農業用水路の鳴戸川の汚染状態があまりにもひどいため、私たちは浄化実験に取り組み、そのデータをもとに最大汚染スポットに設備を設置するよう提案した結果、不十分ながら一応の浄化設備が整った。

原点となった痛ましい

水路の現状から私たちの日常生活が山や川、緑の草木や水などの自然をいつの間にか壊していることを知り、大人がごみを作らず物を循環して使うよう勤める一方、子ども達にも自然と親しみ、かわりあっていくことがどんなに楽しく、大切なことかを知ってもらいたいと考えるようになった。

山の手入れ

まず鳴戸川の水源である今堰というため池に沿った小高い山が荒れ放題だったので、笹などの下草刈りと間伐をした。土地台帳が古く、地主を探して許可を得るまでが一仕事、生え抜き以外を新参者とあからさまに呼ぶ保守的土壌の抵抗が強かった。堰の管理グループとともにこの今堰山を集中的に整備したり、独自に都合がよいときに草刈をするようになった今、私たちの行動に対する理解と信頼が得られたと思われる。

子どもの遊び会など

自然と親しむことをテーマに子どもの遊び会を年 4 回四季それぞれに催している。春は山菜取り、摘み草、竹細工、夏は水遊び、秋は森の探検ややさしいクラフト、冬は凧作りと凧揚げを基本にしている。このほかに、堰の管理グループと一緒に子どもの田植え、稲刈りを共催している。多少中身を変えながら、5 年目を迎えた催しもあり、常連の子どもも多い。戸外で遊ぶことの楽しさを体得した子が多いということであろう。特に 2002 年春には 100 人を超す参加者が集まり、父親の参加が多かったことが印象的であった。成人向けの自然観察会も数回催した。親世代の自然体験が薄く、自分たちの経験を通して子どもの成長期に必要な自然の中の喜びを伝えにくい。いま、それが反省の過程に入ったように見える。私たちのグループには、幼児教

育の専門家がいるが、だんだん多くの親たちが私たちとともに行動し、また提案をしてくれることさえあるのがうれしい。



小冊子「今堰物語」

毎年、子ども向けの小冊子「今堰物語」を作って配布している。この手作りの印刷物は、会のいろいろなイベントを行っているフィールドとして周辺を草刈して大事にしているため池「今堰」にちなんで、植物、昆虫、小動物、鳥、環境を脅かす自然的・人為的な事柄などをやさしい分をカラー写真を混ぜて子ども向けのメッセージとしたものである。今堰は私たちが水質浄化をおこなった用水路の水源であり、初心の象徴でもある。希少生物を含めてトンボなど昆虫の種類が多く、怖いマムシもいる。池の中のヒシは大量に実をつけ、周辺の森にはアケビの実がなる。森には、まだ「子ども遊びリーダー」の子どもたちが作り続けている「陣地」がある。

課外学習

睦沢小学校 5 年生の環境をテーマにした課外学習では、一緒に森を歩き、子どもたちの質問があればわかる範囲で答える。発表会にも招かれるが、研究成果は予想以上のかなり高いレベルである。

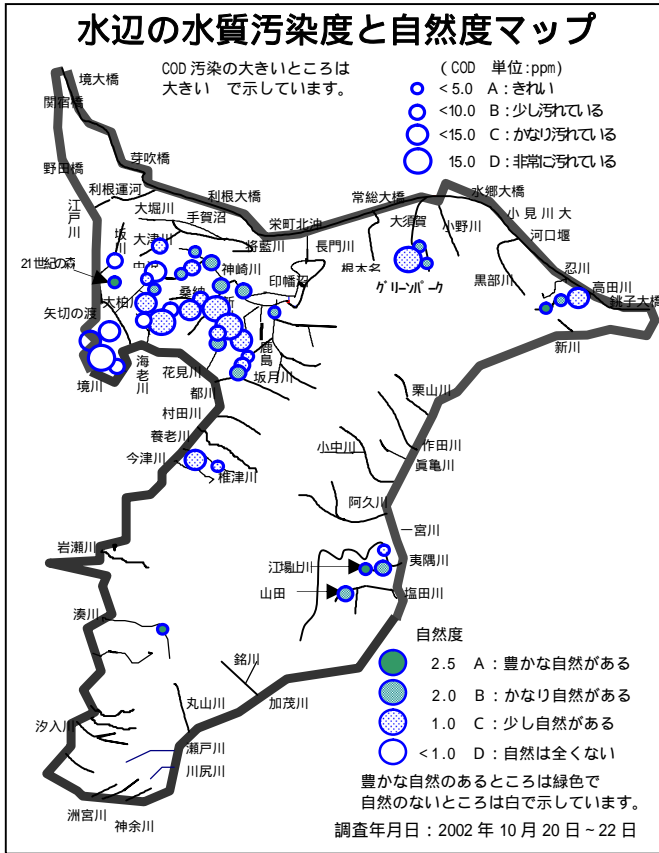
活動資金

活動資金を得るためと資源リサイクルの目的で、茂原市で毎年開かれているリサイクルフェアにも、今まで数回参加している。多くの方の好意と支援で山をなす資源が集まり、会にとって貴重な活動資金となっている。また、「日本財団」からの助成金を得て、草刈り機などの耐久品も購入できた。この 3 年間は、わつしたちの草案イベントに町が県の委託事業として合流することになったが、公的資金は使い勝手が悪く、県の委託事業を NPO 資金でまかなうという矛盾が起きている。近いうちに町と話し合いたいと思っている。

会員からの報告3

ちばコープ水辺の環境調査を実施して

佐藤素子（ちばコープ組合員実験室所属）



ちばコープでは身近な環境に関心をもつきっかけづくりと継続した環境保全活動支援のために、毎年 10 月末に水辺の環境調査を組合員に呼びかけています。これは、一斉測定日に参加者がそれぞれ、身近な水辺で、簡単な自然度調査や簡易水質調査を行い、採水した水をちばコープ組合員実験室に送ります。実験室で水質の分析を行い、結果にコメントを添え、一覧表とともに参加者にお返しします。

実験室では PH、導電率、天谷式簡易比色計を使った COD、リン酸-P、EV 活性（主に合成洗剤残留量）を測定してきました。近年 EV 活性の増加が顕著で、EV が硝酸イオンにも反応するところから、合成洗剤より硝酸イオン(NO_3^-)の影響ではないかと疑われるような状況になり、県環境研究センターの小倉久子さんに相談したところ、市民活動支援ということで研究センターで(NO_3^-)の分析をしていただくことができることになり、実験室でもアンモニア性チッソと亜硝酸性チッソの分析を追加、EV 活性値は補正して合成洗剤残留量に近づけました。小倉さんには交流会でも船橋市の海老川マップを使ってチッソの代謝や川の水質の変化と周りの環境について具体的にお話していただき、出席者の皆さんから大変わかりやすかったと好評でした。

< 概要 >

今年の申し込み数は 145 件ありましたが、採水日に雨が降り、結局 110 件、23 グループ 48 人が参加しました。測定地点は地域的に重なっているため、すべての測定地点をマップに記載できませんが、大体の測定場所と傾向をごらんください。

< 自然度 >

自然度は日本自然保護協会が作成したチャート表をもとに川の流れ方や周りの様子、生物などを 3 点満点で評価し、平均点で自然度を推測します。自然度の高いところには、君津市の湊川や銚子市の高田川に混じって船橋市や八千代市などもあり、都市化した中でも自然度の高い水辺が残っていることが示されています。

< 主な水質分析の結果から >

水質分析の結果を項目ごとに A ~ D にわけ、組み合わせてみるといろいろのことがわかってきます。今回はチッソを中心に考察してみました。

表 1 は硝酸が高濃度で COD 値が低いものです。地下水や湧水には畑地や牧場で肥料などに含まれる NO_3^- が溶け込み、高濃度になっていることがあります。高田川も、畜産・有機農業が原因であると推測されます。

表 2 のように NO_3^- も COD 値も高い場合は、生活排水の影響と畑地の両方の影響があると考えられます。

表 3 は、 NO_3^- が少なく、COD 値と NH_4^+ が高濃度のものです。これは生活排水が流入したばかりで、チッソの代

謝が進んでいない状態です。船橋市の高根川浄化施設の前でチッソの状態がまったく変わり、COD 値も 23ppm から 11ppm に低下し、合成洗剤も 6ppm から 0.1ppm に減少し、浄化能力を証明しました。

表 4 は PH が 8 以上で COD 値が高く、チッソなどは低くなります。これは池やよどんだ川などで植物性プランクトンが増殖していることが多いです。

表 1 . NO_3^- : D COD : A	表 2 . NO_3^- : D COD : C , D
乳清水(湧水) 高田川 3 地点 沢川 離子水公園 八千代 蛸の里 (地下水) 神崎川折立橋 松戸 21C の森の中の川 大柏川支流ホタルの里	金杉川 3 地点 念田川 向田橋 高根川浄化施設後 海老川桜橋 中沢川船橋我孫子線 金掘川
表 3 . NO_3^- : A COD : D NH_4^+ : D	表 4 . PH : 8 以上 COD : D NH_4^+ : A
神崎川八幡神社裏 堀江川吹上橋 前原川 猫実川猫実川橋 北谷津川 高根川浄化施設前	グリーンウォーターパークの池 新川 5 地点

< 今後の課題 >

水辺の水質は、水道水源としての安全性だけでなく、地域の生態系を左右する重要な要素です。水辺は生活の場から離れて、汚染は複雑になってきています。この調査の呼びかけが身近な水辺に気づききっかけとなるだけでなく、調査を持続することで、さらに多くの気づきへ発展させてほしいと願っています。

お知らせコーナー

「環パちば」学習会

日時 2月7日(金) 13:00~15:30
 会場 船橋市勤労市民センター3階第1会議室
 (船橋市本町4-19-6 tel:047-425-2551)
 テーマ 自然再生法を知ろう
 講師 水谷泰史氏
 (環境省自然環境局自然計画課調整専門官)
 飯島 博氏(NPO法人アサザプロジェクト代表)
 開発 法子氏 日本自然保護協会

資料代 500円

申し込み:事業部(中岡)

TEL & FAX: 047-385-8950

E-mail: naka.hta@trust.ocn.ne.jp

第10回エコサロン

日時 2月21日(金) 18:30~20:30
 会場 千葉市民活動センター
 (ちば市役所前、中央コミュニティセンター1F)
 提案者 藤村コノエ氏
 (NPO法人環境文明21専務理事)
 テーマ 持続可能な社会に向けた環境教育・環境学習推進法をつくろう

自発的であるべき環境教育がなぜ法律かなのか
 骨子案説明の後、参加者のみなさまとの意見交換

定員 20名 参加費 500円

問い合わせ先: エコサロン担当

TEL & FAX: 047-385-8950 (中岡)

E-mail: naka.hta@trust.ocn.ne.jp

船橋市消費生活展

日時 2月13日(木)~18日(火)
 会場 船橋東武百貨店6階イベントプラザ
 問い合わせ 船橋市消費生活課 tel047-436-2482
 内容: 展示、実演など
 「環パちば」は船橋消費生活展で初めての展示です。

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

申込先: 千葉県環境財団環境学習推進室気付

TEL: 043-246-2180 FAX: 043-246-6969

会費納入先: 環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

ホームページ:

http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/

平成14年度千葉県環境教育研究発表会

日時 2月15日(土) 10:00~16:00
 場所 千葉県立中央博物館 講堂
 定員 150人(先着) 参加費 無料
 記念講演: 千葉大学教育学部教授 鶴岡義彦氏
 「学校における環境教育推進のための指針」
 環境教育における実践事例報告
 佐原市立佐原小学校 明石康子氏ほか
 エコキットの実演
 問い合わせ 松戸市立旭町中学校 中山まで
 電話 047-342-3651 FAX 047-345-0725
 E-Mail PDD01405@nifty.ne.jp

県のご意見募集中

1. 「三番瀬の再生に向けての中間とりまとめ」に対するご意見 提出期限: 2月28日(金)
 提出及び問い合わせ先
 〒260-8667 千葉県総合企画部政策調整課三番瀬プロジェクトチーム
 ・FAX 送付先 043-224-9026
 ・メールアドレス sanbanze@mz.pref.chiba.jp
2. 「手賀沼水循環回復行動計画」(素案)へのご意見又は提案 提出期限: 2月28日(金)
 提出及び問い合わせ先
 〒260-8667 千葉県環境生活部水質保全課湖沼浄化対策企画調査班
 ・FAX 送付先 043-222-5991
 ・メールアドレス suiho5@mz.pref.chiba.jp
3. 県立都市への公園へのご意見・ご提案
 提出期限: 2月28日(金)
 提出及び問い合わせ先
 ・メールアドレス kouen2@mz.pref.chiba.jp

広報部より

1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。

広報部連絡先 FAX: 047-450-8468

E-mail: motosato@pop07.odn.ne.jp

(古紙100%使用)

千葉県環境財団環境推進学習室気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
 会費を添えて入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		

